

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900078		
法人名	社会法人生き活き館		
事業所名	ケアポート生き活き館巨瀬		
所在地	高梁市巨瀬町5540-1		
自己評価作成日	令和3年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「こころの通うづくり」の理念を基に、利用者様個人を尊重した介護に取り組み継続しています。入居者様の年齢も高齢となり日々の体調管理には早期発見・早期治療に努めご家族様、主治医、医療機関と連携を取り速やかに対応しています。
また、認知症に関する研修、勉強会を通じ認知症への理解、接し方を学び実践しています。昨年はコロナ影響もあり、外へ出掛ける事が困難ではありましたが外出先のご理解、ご協力のもと外食、地域住民様のご協力にて秋祭りの神輿来館など四季を感じて頂ける行事に取り組んでまいりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立時より、事業所の理解を得られる様、さらには気にかけてもらえるような存在となれる様に働きかけを行い、現在は双方の行事参加・医療面・災害時など協力関係を築き地域に密着した事業所です。また、家族には月に1回、写真付きでお便りを送付したり、事業所の現状を細かく伝えることで安心して貰えるよう信頼関係構築に取り組んでいます。家族からのアイデアで移動販売を取り入れ、入居者の楽しみに繋がっています。また、管理者は職員の主体性を高めるために現場の気付きや意見を尊重し、運営に反映できる様努めています。コロナ禍で行動制限される中、活気のあるレクリエーションを取り入れたり、外食が出来る様お店を貸切る等入居者にとって潤いのある生活継続が出来る様職員全員で取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の通うづくり」の理念を職員全員で共有し、気配り、手配り、孫の手介護をモットーに利用者個人を重視したケアを行っています。	法人理念を基に、ユニットごとに職員会議で月目標を掲げています。また、振り返りの機会を設け、職員同士意見を出し合いながら共有して実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響にて交流会は中止となりましたが、本来なら近隣の幼稚園児との交流を年3回行っています。また、地域の行事に参加したり地域の方が当館の行事にボランティアとして参加して下さいます。	地域の方が秋祭りで事業所を訪ねて来てくれたり、門松作り・餅つき等コロナ禍でも感染対策をしながら出来ることは協力しながら取り組みました。また、職員が地元の奉仕作業に参加するなど地域との繋がりを大切に継続しながら日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェは休止させていただいておりますが、地域の方々との交流を通じて認知症への理解、協力を頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より多くの家族様に参加して頂けるよう開催時間を14時としましたがコロナ影響により実質今年度は文章での開催となっています。	今年度は文章での会議が主でしたが、3月は感染対策をしっかりと行い、事業所で開催しました。今後も状況を見ながら、家族や地域に参加してもらえる方法を検討し、サービス向上に活す取り組みをしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所の介護保険課から出席いただき、施設の実情を理解いただいています。また、わからないこと相談などは電話や市役所に出向き対応して頂いています。	運営推進会議に参加があり、情報共有に努めています。また、運営の事等分からないことは直接足を運びこちらの思いが伝わる様、顔の見える関係を大切にしながら良好な協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や通用口は施錠させていただいているが、居室やユニットは自由に移動していただいています。時に目が届くときは玄関等の施錠も解除しています。	職員同士見守り体制を作り安全確保し、玄関の施錠を解除する等自由な暮らしの支援をしています。また、声掛けでは柔らかい表現や分かりやすい表現で抑圧感のない様身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置、年3回以上の研修を行い職員全員が虐待に対する理解を深め、日々の私たちが行っている介護についても振り返り確認しつつ虐待に繋がる介護にならないよう意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにも後見人をつけられている方もおり身近な内容として内外の研修に参加権利擁護について学び、得た情報を職員が活用できるように支援しています。また、必要と思われる御利用者家族様説明、関係機関との連携をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時、その他必要時に利用者様やご家族様に不明な点等ないか尋ね、ご理解頂けるよう説明を行っています。随時変更等あればその都度電話、文章にてお知らせをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や計画作成時、来館時にご意見をいただいています。意見の内容に応じ言いやすい雰囲気作りにも努めています。	面会は、家族に事業所に来てもらって別室にてリモートで行っています。また、毎月担当者から写真付お便りを送付し雰囲気が伝わる様工夫したり、電話で状況を小まめに報告したり連絡を取り意見交換をしながら安心してもらえる様努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会、カンファレンスにおいて意見を出し合い、運営に反映させています。	職員から運営に関する意見を聞く機会があり、職員同士話し合いながら自分達で考えて反映できる様管理者は見守りながら取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、職場の勤務状況や実績を評価し、給与賞与のアップを含め各自がやりがいが持てるよう条件を検討しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、いつまでも向上心を持ってもらう為に内外への研修への参加を促しています。また内部での研修については持ち回りでテーマを決め講師役を努めてさせています。外部研修につきましては勤務扱いや交通費の負担等考慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ケアマネは市内の同業者との交流は出来ていますが、一般職員については、集まりが夕方以降であることが多くなかなか参加出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の状況把握から、ご本人が困っていることや不安な気持ちを聞き出して、安心していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安についても、状況把握の時点から聞き取りをして関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族にとっての一番必要な事を重視して相談や助言を行っています。当館の利用に限らず最善と思えば他のサービスについての説明行い比較検討して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単に介護する・される関係ではなく、人として対等な関係を保てるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていくことを目標とし、また、ご本人とご家族が良い関係を保てるよう又、疎遠になっている家族様には、色々な方法でアプローチしていくことで距離を縮めるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の方からの手紙や来館はとりついており、その方との関係が継続するように心掛けております。馴染みの場所についてはご家族の対応をお願いしています。	入居者・職員は地元の方が多く会話の中で思い出話や共通の話題を通して馴染みの人や場の関係継続に取り組んでいます。また、近所をドライブしたり、散歩の際地域の方から気軽に声をかけてもらえたりと、今までの関係が途切れない様支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を注意して観察しており、新規の方が入られた時や必要と思われる時には席替、声掛け等を行い調和を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人やご家族フォローはもちろん、現在担当の事業所や病院等とも連携を取り、支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人やご家族の意向をくみ取り、ご本人の希望を職員全員が把握、検討する場を設けることでその人らしく暮らしていけるように支援しています。	日頃のコミュニケーションを大切にし行動や表情等、一人ひとりの思いや意向を引き出せる雰囲気作りをしています。職員同士、何が大切で必要か話し合いながら本人本位の支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前の状況把握にてご本人やご家族から聞き取りを行い、職員全員が共有できるよう会議を行い周知していく事に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の行動や言動、その時の対応等記録におとし現状と介護計画に相違を生じた場合には速やかにカンファレンスを行い対応する繰り返しを行うことでご本人様のできる力を継続しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族が必要としていることを聞き取り、担当者会議にて話し合いを行い介護計画の作成を繰り返しながら本人、家族様の希望があれば臨機応変に対応しています。	担当者・ケアマネージャーを中心に本人・家族・医師・看護師・薬剤師の意見を聞きながら作成し、カンファレンスで職員同士話し合いながら取り組んでいます。随時経過報告を行い、現状に即した介護計画になる様関係者で話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の行動や言動、その時の対応等記録におとし現状と介護計画に相違を生じた場合には速やかにカンファレンスを行い対応する事の繰り返しにて対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでのサービスにも限りがありますが、ご本人やご家族にとって最善の対応を心掛けています。ハード、ソフト面の対応も視野に入れていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や展覧会に参加して地元の人たち、2ヶ月に1度の訪問散髪等の外部の方々との交流を図る事により日常とは違う時間を過ごし豊かな気持ちになって頂けるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前にかかりつけ医の相談をさせていただいています。また、入居後はご家族や医療機関と連携をとり適切な医療を受けられるように支援を行っています。	かかりつけ医による継続的な医療を受けられるように個々に応じた医療支援に取り組んでいます。家族が通院の付き添いをする場合は文章で普段の様子や情報を共有し適切な医療を受けられる様に支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調状況は常に看護師に伝えており、必要に応じて受診する等主治医と連携をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院ケースワーカーとは情報交換を行っており、状況把握に行き利用者様が早く退院できるよう共に支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時から意向を聞くようにしており、本人やご家族の希望を基に主治医、医療関係機関と連携を図りながら支援します。	契約時に事業所の出来ることを伝え、その都度話し合いをしながら、家族の役割等も伝え取り組んでいます。職員は救命講習等の研修を受け知識・技術の習得に努め不安の払拭にも努めています。	これからも事業所の出来ることを伝えながら、本人・家族の気持ちに寄り添える関わりを大切に、早い段階から方針統一を図り体制作りを整えられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について研修を行い、救急車を呼ぶ時の手順書を電話の近くに配置しています。また個人ファイルの最初に、救急隊に伝える情報プリントを完備しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を行い、災害時の避難誘導が行えるように確認をしています。	火災・豪雨等想定してグループホーム独自で職員、利用者が参加し細かく役割を確認しながら避難訓練を行っています。また、振り返りの機会を設け次への課題を見つけ取り組んでいます。数年前の豪雨災害の際は地域から水や食料の支援があり、地域とも協力関係を築いています。	災害はいつどこで起こるか分からず、職員も被災することもあるため、今後は地域・消防も含めた訓練、対策を行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を通じて、利用者様のこれまでの人生や考えを尊重したケアを行うよう職員はお互いに注意し合うようにしています。	接遇研修や日々の関わりの中で本人本位に考え、人前であからさまな介護や声掛けをしない等の配慮をし誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。不適切な場合は職員同士注意し合いながら取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけの訴えだけではなく、日頃の些細な言動、行動、表情などから気持ちを導く事により自らの表現、決定等出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内のスケジュールはある程度決まっていますが、利用者様のその日の体調、気分に合わせて無理のない範囲で希望に応じています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前からの身だしなみの習慣の継続、ご本人に合った装いが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は職員が行っていますが利用者様には配膳前に拭いて頂き食後の片付けを手伝って頂いています。行事などでの食事作りでは一緒に作り、食しコミュニケーションを図っています。	利用者の力を発揮できる場として、出来ることを見守りながら一緒におこなっています。また、入居者の希望を聞いて食事やおやつ作ったり、庭で取れたものを料理に入れる等食事を楽しむことのできる支援に力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量、体重等は記録に残し、体調の変化には早急に対応出来るよう看護師や医師と連携をとっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては個人差があるので、利用者様ごとに声掛け・介助、必要であれば歯科受診を検討対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ夜間おしめ使用して頂く事もありますが、本人の訴えあればトイレ誘導しています。個々に排泄パターンを確認、把握し声掛けにてトイレ誘導しています。	なるべくトイレで排泄が出来る様、日中・夜間共に個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。パンツ、パッド類は本人の希望を尊重し季節や体調に合わせて一人ひとりに合った物を使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の場合は水分量、運動量に注意しています。便秘3日以上続くようであれば主治医に相談、指示のもと下剤にて調整対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回で基本の曜日を決めています。が、ご本人の体調や希望に応じ臨機応変に対応しています。	入浴は清潔保持、リラックス、気分転換できる場と捉え個々に沿った支援をしています。また、季節の入浴剤やゆず風呂等いつもと違ったにおいや雰囲気を楽しめるような工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室はもちろんですが、共有スペースの和室コーナーやソファなどご本人様が落ち着ける場所で休んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や説明書で薬の確認を行い、その方の病状を理解した上で服薬の支援を行っています。服薬後の観察も怠らず継続しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	虐待防止委員会を設置、年3回以上の研修を行い職員全員が虐待に対する理解を深め、虐待が起こらないよう意識を高めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生き生き館周辺散歩は何時でも出来るように支援しています。外食やお花見等の戸外行事については安全性面からユニット単位で行っています。個人的な外出についてはご家族様にお願いしています。	天気や体調を見ながら事業所周辺の散歩をしたり、外にテーブルを出して食事やお茶をしたり楽しんでいます。コロナ禍ではありますが、感染対策をして外食したり戸外へ出掛けられる様支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひと月1,000円をお小遣いとして預かり、移動販売が来た時に自分の財布から支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの希望あればこちらでダイヤルを回しお渡ししています。手紙についても同様に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの明るさや音、温湿度には注意を払っています。また、ご利用者様が作られた作品、行事写真、壁面などを飾り季節感を出すようにしています。介護に当たる時のスタッフのかもし出す雰囲気にも気を配っています。	共用空間スペースは季節感が感じられる様に入居者と一緒に作った作品を個々の部屋の表札に飾り付けをしています。また、入居者が自分のペースで過ごせるように声かけや落ち着いた雰囲気作りを心掛け心地よく過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファ等誰でも気軽に使用出来る場所を設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談の上、普段から使用していた家具や食器等を持参して頂いています。	居室は馴染みの家具などを持ち込まれ、本人・家族の希望に沿った部屋となっており、入居者はゆっくりと居室で過ごせように配慮した居室づくりとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の残存機能を活かせる環境づくりをしています。介助ばかりをするのではなく、ご本人の自立を促す対応をしています。		